

第七講 「優美と不愉快」な言葉

★優美や上品なものとはこちらにとって「魅力のある」ものを示す。

★不愉快なものとはこちらにとって「気に食わない」ものや「嫌なこと」を示す。

優美（上品）系

貴あてなり・・・身分が高い・高貴だ・優雅だ・上品だ

優いなり・・・素晴らしくよい・立派だ・優雅だ・上品だ・風流だ・

艶えんなり・・・優美なさま・なまめかしいさま・色っぽいさま

艶なまめかし・・・若々しい・みずみずしい・優美である・優雅だ・色っぽい

優やし・・・優美である・上品だ・けなげである・恥ずかしい・つらい・

※やさしは元々「瘦やす」から来ていて『身が痩せほそるような思い』がある。

不愉快系

あいなし（あひなし）・・・気に食わない・感心できない・面白くない・つまらない

味気無あぢきなし・・・道理に反している・不当だ・甲斐がない・面白くない・苦々しい

いぶせし・・・気がかりだ・うつとうしい・不快である・汚らしい

憂うし・・・つらい・苦しい・にくい・気に食わない・無情だ

心憂こころうし・・・つらい・なさけない・いやだ・不愉快だ

うたて・・・事態が進むさま・ますます・ひどく・異様に・いやに・不快に・情けなく

疎うとまし・・・いとわしい・いやだ・気味が悪い・

難むづかし・・・うつとうしい・不快である・面倒である・気味が悪い

心付こころづきなし・・・面白くない・気に食わない・不愉快である

優美類

いとしろう、あてにやせられたど

↓たいそう色白で、上品で痩せているけれど

ひとりはいやしき男の貧しき、ひとり**はあて**なる男もたりけり

↓一人は身分が低い男で貧しい人物を、もう一人は高貴な男を（夫に）持っていた

なほ事ざまのいうにおぼえて

↓それでもやはり事の様子が優雅に思われて

取るかたなく口惜しき際と、**いうなり**とおぼゆばかり勝れたるとは

↓なんの取り柄もなくいやしい身分（の者）と、すばらしいと感じられるほど優れている（者）とは

なかなか**えん**にをかしき夜かな

↓かえってしっとりとした趣のあり風情がある夜であることよ

えんなる心地して。来し方のことなども

↓なまめかしい気持ちして、昔のことなども

若う**なまめか**しき御さまなり

↓若々しくみずみずしいご様子である

（病気であった人の顔が少々やつれていた様子を）なかなか**いみじくなまめか**しくて

↓かえってたいそう優美な様子で

世の中を憂しと**やさ**しと思へども

↓この世の中を辛いと、身も細るほどに耐えがたいと思うけれど

あてなるものは猶も**やさ**しかりけり

↓身分の高い人はやはり風流であるなあ

不愉快類

世に語り伝ふること、まことは**あいなき**にや、多くはみな虚言なり

↓世間で語り伝わっていることは、真実であれば**面白**がないのであろうか、多くはみな作り話である

甚だ**あぢき**なし。以て天下に君たるべからず

↓はなはだ非道である。よってこの天下に君臨するのに**適当**でない

宝を費やし心を悩ますことはすぐれて**あぢき**なくぞ侍る

↓財産を浪費し神経を使うことは特につまらないことでございます

道すがら汗**いぶせ**かりつれば、身をきよめて

↓道中の汗が汚らしかつたので、身を清めて

いたづらに寝て明かすらむ人さへ**ぞうし**き

↓何もしないで寝ている者がいるとすれば、その人までが気に食わないことだ

世の中になほいと**ころう**きものは

↓世の中でなんといいてもたいそうつらいものは

いふかいなき下衆の、うち歌ひたるこそ、いと**ころう**けれ

↓つまらない身分の者が、口に出して歌っているの（を聞くの）がたいそう不快である

あなうたや。ゆゆしうも侍るかな。

↓あら困ったこと。ひどい仕打ちで**ご**ざいます

山彦の答ふる声、いと**うと**まし

↓こだまの反響する音がひどく不気味である

田舎などは**むつか**しきものと

↓田舎などは我慢のできぬ嫌なもの